

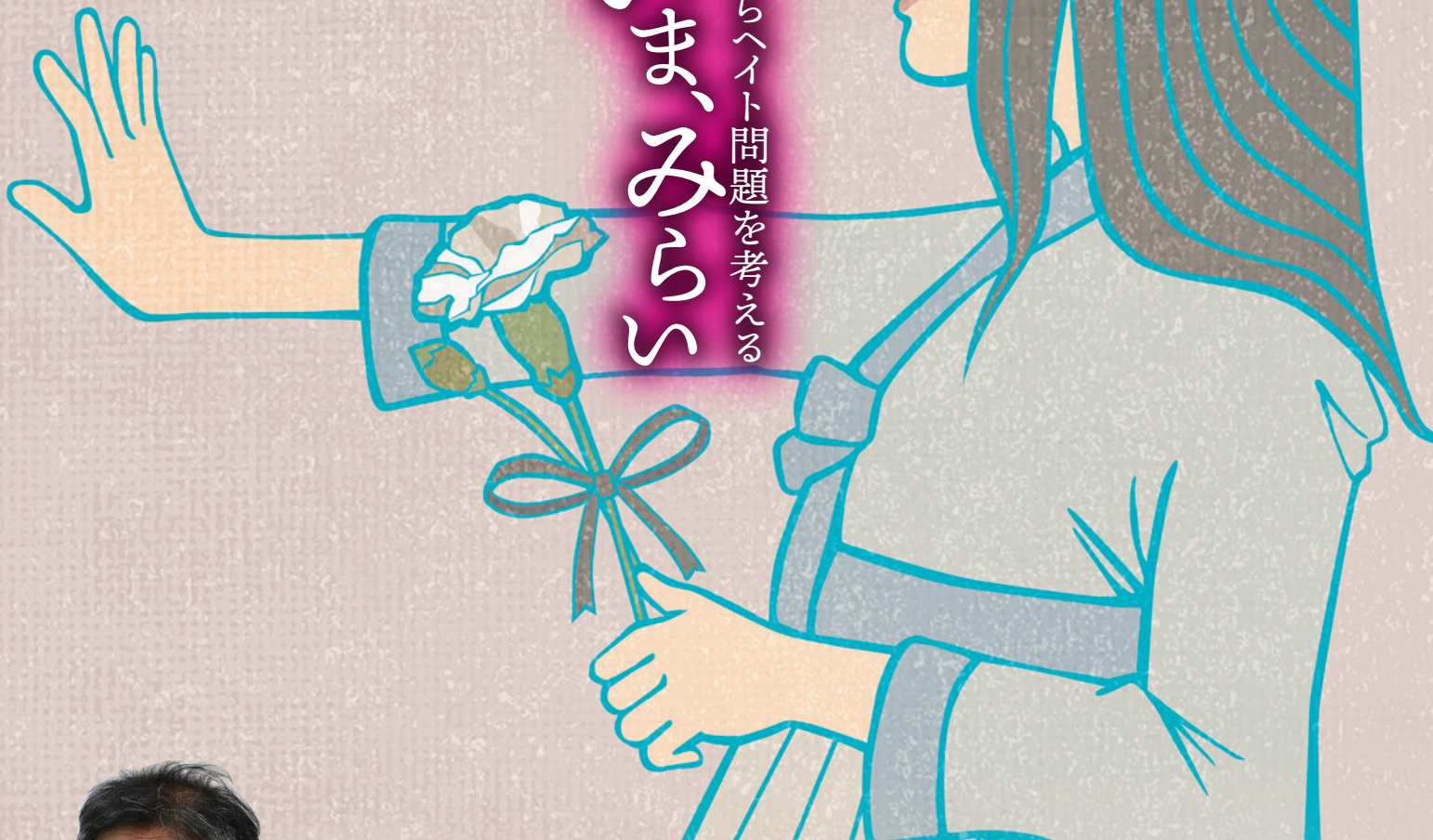


市民とともに考える
憲法講座 Vol.

14

101

年前、いま、みらい
朝鮮人虐殺からヘイト問題を考える



K a t o N a o k i
加藤 直樹 氏

ノンフィクション作家

1967年、東京都生まれ。法政大学中退。出版社勤務を経てフリーランスに。著書に『九月、東京の路上で 1923年関東大震災ジェノサイドの残響』（ころから、2014年）等、共著に『NOヘイト！ 出版の製造者責任を考える』（14年）、『さらば、ヘイト本！ 嫌韓反中本ブームの裏側』（共にくろから、15年）、翻訳に『沸点 ソウル・オン・ザ・ストリート』（チェ・ギョクソク著、ころから、16年）がある。

福岡県弁護士会は、2022年の総会で、「ヘイトスピーチのない社会の実現のために行動する宣言」を採択し、行政に対する働きかけなど様々な活動を行っています。

今回は、ヘイトスピーチをはじめとする人種や外国人差別の歴史や現状について、理解を深めるため、関東大震災におけるヘイトクライムについて造詣が深い、加藤直樹氏を迎えます。現代にもつらなる、その暴力の構造を詳細な事例と共に語っていただきます。

2024

12月14日

福岡県弁護士会館

2F大ホール (270名)

福岡市中央区六本松4-2-5

開場 13:30 開演 14:00

地下鉄：地下鉄七隈線六本松駅より徒歩約3分

西鉄バス：「六本松」バス停より徒歩約3分

・弁護士会館・裁判所の駐車場は利用できません。お車でお越しの方は近隣の駐車場をご利用下さい。

参加
無料



オンライン参加

右記の二次元バーコードからお申し込みください
(要・事前申込)
<https://forms.gle/DY2CCAew8RHGx8TDA>



会場参加

会場参加は申込不要